

## 令和4年度 横浜氷取沢高等学校国際交流（ニュージーランド）の取り組み

### 1. 取り組みの経緯

令和3年度に、オーストラリア、ニュージーランドとの国際交流を斡旋しているシドニー事務所より、ニュージーランドの学校（リットンハイスクール）から日本の学校との交流希望がある報告を受けた。そこで、本校の生徒を対象にニュージーランドの学校との交流に関して予備調査を行い、一定数の交流希望者がいることを確認したうえで、先方へ交流希望を出した。令和3年度の3月に先方の教員とオンラインで打ち合わせをし、交流を開始させることとなった。

### 2. 今年度の取り組み

令和3年度の1月にオンライン交流の希望者を募り、当初は1年生5名、2年生7名計12名の交流委員が集まった。3月に初回の交流をし、お互いの自己紹介をした。4月に入り、新学年となり、特に新3年生については進路を決定する学年ということもあり、再度交流活動継続の意志を確認し、結果として令和4年度は2年生4名、3年生4名の計8名で活動することとなった。3月から通算して合計6回のオンライン交流を、Zoomを通して行った。

### 3. オンライン交流の具体的内容

以下が実際のオンライン交流の内容である。

第1回	3月15日	自己紹介
第2回	4月12日	日常会話（集団内で順番に質問する）
第3回	5月10日	日常会話（日本語表現に関する質問あり）
第4回	6月14日	ゲーム（相手の嘘を当てさせる）
第5回	11月1日	1対2～3名での日常会話
第6回	11月8日	1対2～3名での日常会話

リットンハイスクールの生徒は3名程度の参加で、その中の1人が日本語が堪能だったこともあり、交流時は日本語、英語両方の言語を用いた。内容としては、自己紹介から始まり、相手校からの日本語に関する質問など、日本語に関するものや、ニュージーランドの文化（ハカ）の紹介に至るまで、幅広い話題で話をした。後半はZoomのブレイクアウトルーム機能を用いて、1対2～3名の状況で会話をする時間を作ることができたので、それまでの交流より会話が弾んでいたように思われる。

#### 4. ニュージーランド交流委員の感想（抜粋）

以下は今年度参加した生徒の活動に対する振り返りである。6回の交流を通して、英語学習への動機づけ、英語を用いたコミュニケーションに対する意識の変容が見て取れる。

##### 生徒 A

私は、単語がぱっと出てこないことと上手く英語で文ができているかが気になってしまい、英語を自信を持って話すことができませんでした。6回のニュージーランド交流を通して、すぐに出てきて使える単語が増えたかどうかは分かりません。ですが、『とりあえず英語に変換してみよう』『文法がぐちゃぐちゃでも伝われば！』と思えるようになりました。また、英語をもっと勉強しなければ！と思うきっかけにもなりました。

今後はリスニングをして耳を鍛えたり、分からない単語は直ぐに調べてパッと英語が出るようにしたいです。

自分の気持ちも変わり、今までどこか避けてきたネイティブの人と話すことが楽しくなり、自分にとって今回の交流会はとてもいい機会となりました。次回以降も機会があれば参加したいと思います。

##### 生徒 B

今回ニュージーランド交流を通して、最初は上手く文を使う事が出来ずに悩んでましたが、段々と質問や自己紹介の文を言えたり、自然に相槌が出てくるようになりました。また、少人数なので時間を沢山使いながら色々な話ことができました。

交流が終わって次の回まで LINE やインスタグラムで会話もしました。

日本語を教えたり、逆に英語の知らなかった表現を学んだり、とても勉強になりました。季節も違って、クリスマスやハロウィンがニュージーランドは寒かったりと本当に色々なことを学べました。

コロナがもう少し収束して、ニュージーランドに行ける機会があったら、みんなに会いたいです。また、日本に来たらたくさん日本を案内してあげたいと思いました。

#### 5. 課題と今後の展望

先方の高校の生徒との交流を通して、生徒の英語によるコミュニケーションに対しての意欲向上は見られたが、毎回の交流がやや場当たりのものとなってしまった部分は課題であり、それぞれの回についてどんなテーマを設定するか、どのような学びを生徒ができるかという観点で計画的にオンライン交流を実施していけるようにする必要がある。リットンハイスクールからは本校への訪問希望も聞いており、今回の交流をきっかけとして、ニュージーランドとの交流についても充実させていきたい。